

発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会
〒336-0031 さいたま市南区
鹿手袋4-1-7(建産連会館内)
TEL 048(864)0385
URL <http://www.saidenkyo.jp/>
E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

彩の輝

さいのかがやき

第189号

令和元年11月1日発行

発行人 岡村一巳

編集人 広報委員会

(委員長 矢嶋博和)

編集 日本工業経済新聞社
(埼玉建設新聞)

『熊本地震の経験から学ぶ』 災害復旧対策講習会



岡村会長

9月5日、防災体制づくりの参考とするため3部構成による災害復旧対策講習会をさいたま市南区の建産連研修センターで開催しました。震災被災者の貴重な体験などを教訓に、来るであろう大規模災害に備える防災知識を皆で共有する良い機会となりました。

開催にあたり岡村会長は「災害は大地震、豪雨、富士山の噴火なども考えられます。このような事態におちいった時、どのように準備すれば減災できるか常日頃考えなければなりません。協会では県と災害時の応急復旧対策に関する協定を締結し体制づくりに取り組んでいるところです。今日の講習会を災害対応の参考としていただければ」とあいさつ。

第1部では県危機管理防災部消防防災課災害対策担当の内野明徳氏が『埼玉県の防災体制について』と題し、昨年発生した西日本豪雨への支援など近年の主な災害対応をはじめ、県の防災体制、市町村との連携などについて説明。災害に向けた耐震化や備蓄といった事前対策などを紹介しました。

引き続き第2部では熊本県電設業協会理事で九州電設(株)

代表取締役会長の穴井憲義氏が『震災を経験して分かった課題と準備』と題して講演。これまでの震災の発生状況や活断層の分布図などを根拠に、関東地震や東海地震の発生を懸念し警鐘を鳴らしました。そして熊本地震の被災状況や対応状況、地震が電気設備に及ぼす影響を写真で分かりやすく説明した後、BCP(事業継続計画)の策定など災害への十分な備えを促しました。

第3部では、あいおいニッセイ同和損保(株)埼玉支店の細川忠昭課長が『シーマップリアルタイム被害予測について』と題し、台風や豪雨、地震の被災状況を予測しその結果を公開するウェブサイトを紹介しました。



内野氏



穴井理事



防災知識を皆で共有しました



細川課長

円滑な災害対応スキル向上へ



熊田副会長

円滑な災害対応へのスキル向上を目的に、本年度第1回目の技術講習会を、9月13日にさいたま市南区の建産連研修センターで開催しました。県、市町村職員、会員企業技術者など約70人が参加。今回は3部構成により、『タフロック講習』の座学を受けたほか、『調光機能付LED照明』『連用照明システム』といった最新機能について学びました。

冒頭、熊田弘信副会長は、「本日は3部構成で行われます。限られた時間ではありますが、しっかりと学んで社内に持ち帰った後、この内容を説明し共有していただき、大いに役立てられるようお願いしたいと思います」とあいさつ。引き続き講師が紹介されました。

まず第1部では、『貫通部防火措置工法を知る』と題して、ネグロス電工(株)が扱う『タフロック』の講習会が、福元直樹氏(同社市場開発一課)の講師により催されました。

福元氏は「常に法令、工法を遵守すること、施工時には防火措置材の施工方法をよく理解し正しく施工することが、結果的に火災被害を最小限に抑えることにつなが

第1回技術講習会を開催

ります」と述べながら、防火区画貫通部の防火措置が単なる穴埋め作業ではなく、開口を設けることにより欠損した防火区画の機能を元に戻すという役目を強調しました。

続いて第2部では、岩崎電気(株)照明事業企画推進部の川股敦史氏と商品企画開発部の小島弘之氏が、『避難所への調光機能付LED照明の提案と今後の商品展開』と題して講演。避難所生活の中で見えてきた明かりの必要性から、調光機能付きLED照明のメリットについて説明されました。

最後に第3部では、ネグロス電工(株)商品企画課の新川祐吾氏が、連用照明システム『ネグレツツウェイ』について説明。工場やスーパー・マーケット、倉庫などの屋内照明設備において、レースウェイ・電源配線・照明器具を一体化し、従来施工よりも作業工数を省力化した商品であることを紹介しました。



福元氏



川股氏



小島氏



新川氏



「彩の耀」に寄せて



深谷市長
小島 進

「彩の耀」第189号のご発行、心よりお慶び申し上げます。

一般社団法人埼玉県電業協会の皆様には、日頃より電気設備産業の振興を通して、地域の安全と安心、社会福祉の向上にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

深谷市は、埼玉県北西部に位置し、北は利根川を挟み群馬県に接しています。利根川と荒川という関東の2大清流を有し、その恩恵を受けた肥沃な大地により深谷ねぎ、とうもろこし、ブロッコリーをはじめとした野菜の栽培が盛んで、ゆりやチューリップなど全国に誇る花の产地でもあります。

また、深谷市は、現在新一万円札の肖像、そして再来年の大河ドラマの主人公としても注目を集め近現代日本経済の父 渋沢栄一翁生誕の地です。市内には、栄一翁が帰郷した際に寝泊まりした旧渋沢邸「中(なか)の(ん)家(ち)」をはじめ、渋沢栄一記念館や誠之堂・清風亭など、その足跡を感じることができる施設が数多く残されています。

約500の企業の設立に関わり、経済人として名高い栄一翁ですが、約600もの教育機関・社会公共事業の支援に熱心に取り組むなど、社会福祉の増進にも多大な功績を残されました。市では、公益のために尽くしたこの精神を全国に広く発信するため、関係団体等と連携しながら顕彰とPRを行っているところです。

こうしたなか、深谷市が高い関心を集めることの機会を一過性のものとせず、多くの人に深谷に訪れていただき、地域の活性化に繋げていく

ために、市としても様々な取組を行っています。その一つが、関越自動車道花園インターチェンジの利便性を活かし農業と観光の振興を図る「花園IC拠点整備プロジェクト」です。花園インターチェンジの近接地にアウトレットモールを核とした観光型集客施設を設置し、隣接して魅力発信、深谷産野菜のPRのための施設や緑地を整備するもので、いよいよ今年から造成工事に着手しました。今後も、一日も早い完成を目指し事業を推進してまいります。

さらに、この拠点整備を基軸として、まち全体を野菜のテーマパークと見立て観光客の市内回遊を促す「野菜を楽しめるまちづくり戦略」を策定し、生産地の強みを活かした観光策を構築していく取組も進行しています。

また、昨年から、11月23日の勤労感謝の日に深谷ねぎを贈り労をねぎらう深谷発の新習慣「深谷ねぎらいの日」をスタートさせました。皆様もこの機会にぜひ、日頃お世話になっている大切なひとへ、ねぎ束やねぎ料理を贈ってみてはいかがでしょうか。

今後も、こうした施策を積極的に展開し、市内に存在する地域資源を最大限に活用していくとともに、子育てや教育施策の充実を図り、この深谷により多くの元気と笑顔が溢れるようまちづくりに取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願ひいたします。

結びにあたり、一般社団法人埼玉県電業協会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

ビジネスマナーを再確認 ネグロス電工ショールーム見学も



佐野委員長



講師の井島氏



永野所長

7月17日、18日の2日間、新入社員フォローアップ研修を開催しました。初日はさいたま市南区の埼玉建産連会館でビジネスマナーを専門とする井島鈴子氏を講師に招き、確実なキャリアアップを積むための再教育を受けました。2日目は賛助会員のネグロス電工(株)東京中央営業所・ショールーム(東京都江東区)を見学。電設資材や工具の特長を、実際に手に触れながら学びました。

佐野雄一朗人材育成委員長は「今年4月の新入社員研修から3ヶ月が経過しました。今日はそれぞれの成長を確認するとともに、深く接客できるように自分のスキルを磨いてください」とあいさつ。

井島氏は開始あたり「皆さまが期待されて活躍している話を聞いており、大変嬉しく思います。今日も

新入社員 フォローアップ研修

春の新人研修の時と同じように短時間ではありますが、いろいろなことを伝えます。是非、積極的に参加して学んでいてください」と話し講義に入りました。

新入社員研修時のおさらいから始め、自分を育てるためのP D C Aを再度徹底して頭に叩き込みました。顧客満足度の追求、職場で必要となるコミュニケーションと人間関係について考え、理論と実習により問題が発生した際の処理能力を高めるための手法を学びました。

2日目はネグロス電工の東京中央営業所へ電車で移動。到着すると、北関東営業部大宮営業所の永野広史所長が「今日は実際に商品を見て触って理解していただければ」とあいさつ。

講習では、建築工事と電気工事の工程をビデオ視聴した後、大宮営業所の堂園和照主幹が電設資材について説明。引き続きショールームに移動して分類ごとに商品の説明を受けた後、商品の組立など実技指導も行われました。

2日間の研修を終えて川合昭副会長が、講師の井島氏やネグロス電工の関係者にお礼の言葉を述べた後、受講者全員に修了証を授与し、研修は成功裏に幕を閉じました。



ネグロス電工(株)東京中央営業所の前で記念撮影

企業対策 セミナー

円滑施工へ制度学ぶ 空衛と共に企業対策セミナー

事主 業要



関口主幹



福田主査



清水管理官



杉田課長

当協会と埼玉県空調衛生設備協会の共催による企業対策セミナーが7月25日、さいたま市中央区の県男女共同参画推進センターで開かれ、県と国土交通省の職員を講師に招き両協会員約70人が参加しました。県からは総合評価方式の技術資料作成のポイント、国交省からは營繕工事の働き方改革の取り組みなどが説明され、円滑な施工確保に向けた国や県における制度の知識を深めました。

冒頭、岡村会長は「国の仕事を受注されるのは地域限定の方もおられるかもしれません、県や市町村の根本となる国の入札制度などを理解することは参考になると思います」とあいさつ。引き続き講師を紹介しました。

県の講義では、はじめに県土整備部建設管理課の関口智則主幹(建築技術・積算担当)が建築工事実務要覧の改定について説明。この改定は、公共建築工事標

準仕様書等の改定に合わせて3年に一度、大きく見直しているものです。監督要領や工事写真の作成要領、成績評定要領の主な改定内容などを解説しました。

次に県総合技術センターの福田正久主査(建築・設備工事総合評価担当)が、総合評価方式の技術資料の作成ポイントを解説。総合評価方式の技術資料、自己採点申請書をより適切に作成できるよう、2018年度以降の具体的な間違い事例を列挙。技術資料などを作成する際の参考とするよう述べました。また技術提案型の実施状況、加点されなかつた提案事例などに触れました。

国交省の講義では関東地方整備局営繕部の2人がそれぞれ登壇。清水克紀官房施設管理官が、円滑な施工確保に向けた各種取り組みとして、適正な工期設定や施工期間の確保、週休2日工事、施工合理化、ICTといった働き方改革について紹介。

引き続き杉田篤司技術・評価課長が、競争参加資格申請書作成時の留意事項について、参考資料をもとに詳しく解説。申請時に記載内容や添付書類をよく確認するよう注意を促しました。

最後に空衛の飯沼会長が「講師の皆さま、本日はたくさんの方々の資料を準備して説明いただきありがとうございました」と閉会の辞を述べました。

建設業の担い手育成へ受験準備講習会を開催

1級電気通信工事施工管理技士

8月6日、7日の2日間、1級電気通信工事施工管理技術検定試験の受験準備講習会（学科コース）を建産連研修センターで実施しました。講師はSEEDO所属の前田義文氏。30年ぶりに新設された施工管理技士の資格である『電気通信工事施工管理技士』の1級合格に向け、重点的な部分に焦点を絞りながら内容を学びました。

講義は初めての試験とあって電気通信における基本工学、関連分野、施工管理の全般をテキストをもとに実施。先に実施された2級試験の内容を参考に織り交ぜながら解説しました。

第一種電気工事士

8月23日、30日、9月13日、20日、27日の5日間にわたり、建産連研修センターで、第一種電気工事士受験準備講習会（筆記コース）を開催しました。講師は小泉一夫氏（ケイ・教育企画サポート事務所代表）。カリキュラムに沿った講義と模擬試験、個人指導をくり返し、筆記試験の突破に向けて具体的な学習指導を受講しました。



前田義文先生



小泉一夫先生



渡邊一雄先生

1級電気工事施工管理技士

9月4日、11日、18日、25日の4日間、1級電気工事施工管理技術検定実地試験受験準備講習会（実地コース）を建産連研修センターで実施しました。ケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏を講師に迎え、出題傾向の予想のもと、4日間にわたり、毎回模擬試験を行い、解答の添削、個人別学習指導などを実施。模擬試験では施工経験記述、法令、施工管理、用語の定義などについて過去に出題された問題を参考に、試験問題の傾向を探り、受講者に合わせきめ細やかな対策を講じました。

第二種電気工事士

7月9日、10日の2日間、第二種電気工事士試験受験準備講習会（技能コース）を建産連研修センターで開催しました。講師はWSK Brain Group & RIC 代表の渡邊一雄氏。技能試験の概要をはじめ、試験当日の流れなどを確認した後、欠陥を招かずに試験に合格するためのコツが伝えられました。この2日で公開問題13問の作業ポイントと合否判定基準を習得。

判断基準で設定している数値（mm）が現状に即して限りなく0mmに近い施工が求められていることや、作業中の怪我、出血に注意すること、配線、寸法、接続方法などの相違を意識することなど、試験のポイントを分かりやすく解説しました。

作業方法と知識を伝授

足場の作業主任者技能講習

7月11日、12日の2日間、足場の組立て等作業主任者技能講習を建産連研修センターで実施しました。厚生労働省安全衛生トレーナーで、ケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏が講師を担当。作業主任者が知らなければいけない統計をもとに注意を促し、講じるべき対策を指導。安全管理と作業者教育の重要性を学びました。

1日目は作業方法に関する知識として、まず災害発生状況を確認するとともに、災害事例から教訓を得ました。それによると足場組立て・解体の災害発生状況は、墜落転落災害が74.4%、運搬・揚重災害12.8%です。足場の種類別死亡災害は枠組み足場31.1%、釣り足場19.5%、単管足場

11.0%。

また初日は作業主任者の役割、足場の種類、作業計画と安全対策、各種足場の組立て・解体などについて指導を受けました。

続く2日目には工事用設備・機械・器具・作業環境などに関する知識として、服装・保護具、使用工具、重機などの取り扱い、玉掛けおよび合図などを習ったほか、作業者に対する教育・指導として、具体的な手順書の作り方などを学びました。



～川越まつりと共に～

株式会社 電成社 代表取締役 山 口 裕

我が街川越には、370年以上の伝統を誇る「川越まつり」が有ります。

平成17年に国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年12月にはユネスコ無形文化遺産にも登録された、370年以上の歴史と伝統を誇る川越市の最大イベントの一つとされています。

江戸慶安時代（1648年）松平信綱公が、当時の小江戸と呼ばれた川越藩主となり、氷川神社に祭礼用具を寄進して神輿行列を始め、町人たちは供奉しました。やがて山車を引き、お囃子が、そしておかめや天狐のお面をつけた踊りが重なり、山車を所有する各町内ごとにねり歩き、音楽を奏で曳つかわせとなり、地元町民のプライドが熱を帯び、祭りを盛り上げていくというものです。

山車を出す町民の思いはすさまじく、夏の暑い頃から太鼓や笛の練習を幼少の子供の時より習練、会得することは、大きな喜びでもありました。

現在の川越は観光都市として、年間日本国内外より750万人が訪れます。

そして「川越まつり」には、100万人の人々に訪

Voice

れていただいておりますが、地元町内会の我々にとっては、少子化の波の中参加者が減りつつあり、大変寂しい思いも同時に感じ、複雑な所もあります。

伝統を引継ぎ、次世代に継承していく事は、仕事も同様で地元で生き、地元に貢献し、地元を誇れる企業でありたい。決して電気設備工事業を先細りの業種にしてはいけないと祭りで浮かれて、自分に言いきかせ、100年後も「川越まつり」と共に生きつづけていける様に今年も自分に「喝」を入れています。



低圧・高圧の電気取扱者特別教育を実施

6月20日、21日の2日間、低圧電気取扱者特別教育を建産連研修センターで行いました。講師はケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏。労働安全衛生法に基づくカリキュラムに沿って、関係法令や基礎知識、絶縁保護方法、休電計画書作成などについて指導を受けました。

開始にあたり小泉氏は「電気工事の現場の仕事と教育を行ってきました。皆さんの資格取得のお手伝いをさせていただいております。低圧電気取扱業務を行うには、労働安全衛生規則により規定された、特別教育を受けなければなりません。また重要な所はオンラインのマークをするように言いますのでしっかりと覚えてください」などと話し、受講にあたっての注意事項を説明しました。

初日は低圧の電気・電気設備・安全作業用具に関する基礎知識として、特に危険性について学んだ後、低圧活線作業および活線近接作業の方法などを習い、災害事例研究として討議も行いました。

2日目は関係法令の説明を聞いた後、実技として、低圧充電電路の防護や作業者の絶縁保護の方法、休電計画書・作業手順書の作成、救命救急法などについて学び、質疑応答、理解度確認テストを実施。全課程を終えた後、修了証が授与されました。



7月18日、19日の2日間、建産連研修センターで、高圧・特別高圧電気取扱者特別教育を行いました。講師はケイ・教育企画サポート事務所代表の小泉一夫氏。安全な作業環境を守る手段や、危険を回避する作業手順、さらには保護具・防具の扱い方など多方面にわたり、集中して講義を受け、労働安全衛生法に基づく法定教育を修了しました。

小泉氏は「この特別教育は、安全のため、けが人を出さない、感電をしない、操作を間違えない、そうしたことが目的となっています。きょう、あすと詳しく皆さんと勉強していきたいと思います。しっかりと学んでください」と話し、講義に入りました。

初日は高圧・特別高圧の電気・設備・安全作業用具に関する基礎知識をまず徹底して学習しました。

続いて2日目は活線作業・活線近接作業の方法として、器具・工具の取り扱い、安全な距離の確保、停電回路に対する措置、開閉装置の操作などを確認。また救急時の措置や、事故発生事例を参考に、災害防止の取り組みを学びました。

このほか関係法令を習い、実技として操作手順書を作成。理解度を確認するためのテストを実施して全工程を終え、修了証が授与されました。



協会のうごき

8月

- 6・7日 1級電気通信工事施工管理技術検定試験受験準備講習会(学科コース)
 23日 第7回プロジェクト会議
9月
 5日 災害復旧対策講習会
 13日 第1回技術講習会
 17日 第6回理事会
 20日 第1回広報委員会

20日 第3回人材育成委員会

24日 第8回プロジェクト会議

10月

- 4日 職長・安全衛生責任者能力向上教育
 9日 第2回広報委員会
 15日 埼玉県設備課との意見交換会

15日 第7回理事会

23日 電気工事現場研修

三県連絡会議

26・27日 登録電気工事基幹技能者認定講習

28日 第9回プロジェクト会議

埼玉県認定職業訓練事業

第一種電気工事士試験受験準備講習会(筆記コース×5回)	8月23・30日、9月13・20・27日
1級電気工事施工管理技術検定試験受験準備講習会(実地コース×4回)	9月4・11・18・25日

(一社)埼玉県電業協会会員

さいたま支部 (13社)

- 旭電気工業(株)(大宮区)
 浦和電気工事(株)(南区)
 ○大塚電設(株)(浦和区)
 (株)岡村電機(緑区)
 埼玉田中電気(株)(南区)
 埼玉電設(株)(中央区)
 栄電業(株)(上尾市)



新生電気工事(株)(見沼区)

- (株)積田電業社(浦和区)
 中村電設工業(株)(岩槻区)
 (株)万代電気工業(桜区)
 瑞穂電設(株)(北区)
 ○(株)八洲電業社(北区)

東部支部 (12社)

- (株)内田電気商会(久喜市)
 (株)大久保電気(越谷市)
 倉持電気(株)(三郷市)

支部長○ 副支部長○

- (株)三進電気工事(上尾市)
 島村電業(株)(上尾市)
 (株)新電気(三郷市)
 ○(株)大広電気(八潮市)
 太洋電設工業(株)(越谷市)
 (株)高岡電気工業(松伏町)
 ニチデン技術サービス(株)

(北本市)

- 深井電気(株)(北本市)
 (株)弓木電設社(白岡市)

西部支部 (18社)

- 飯島電器工事(株)(川越市)
 ○(株)市之瀬電設(志木市)
 (株)大庭電気商会(川越市)
 (株)岡島電気商会(川越市)
 (株)おぎでん(川越市)
 熊田電気工事(株)(狭山市)
 (株)三共電気商会(和光市)
 (株)関根電気商会(川越市)
 相馬電業(株)(和光市)
 (株)電成社(川越市)
 (株)中村電気(新座市)
 ○橋電(株)(所沢市)
 (株)橋本電工(所沢市)
 フジヤ電気工事(株)(川越市)
 (株)北産電設(所沢市)
 (株)まつもと電機(和光市)
 (株)明電社(川越市)
 (株)ヤマト・イズミテクノス

(ふじみ野市)

北部支部 (16社)

- イーテクノス(株)(熊谷市)
 ○(株)イートラスト埼玉
 (行田市)
 (株)内村電気(深谷市)
 (株)エコー(深谷市)
 共和電機(株)(秩父市)
 熊谷電機(株)(熊谷市)
 (株)栗原電機(深谷市)
 霜田電気(株)(皆野町)
 中外電気工業(株)(深谷市)
 (株)東電工業社(熊谷市)
 (株)長井電機(熊谷市)
 (株)沼尻電気工事(深谷市)
 (株)早川電工(鴻巣市)
 松山電設(株)(東松山市)
 ムサシ電機工業(株)(行田市)
 ○(株)躍進電気(深谷市)

南部支部 (7社)

- 内山電設(株)(川口市)
 (株)奥富電気工事(川口市)

建築設備3団体が県へ分離分割発注を要望

9月19日、当協会と(一社)埼玉県空調衛生設備協会、(一社)埼玉県設備設計事務所協会の建築設備3団体合同で、『分離分割発注に関する要望書』を、大野元裕知事をはじめ、県議会議長、県土整備部長、都市整備部長などの主要部局に提出しました。



大野知事(右から2人目)と3団体会長